

事例 26

タイトル： 一人がいいけど、一人は困る！

・ <事例の状況>

入居して間もないAさん。居宅サービスを全て拒否し、ホームヘルパーを追い返す状態で、唯一の身寄りである甥に、毎日のように「おなか空いた。」と電話をしていた。甥も親の介護を一人で担っており、Aさんを自宅に呼ぶことも出来ず、数回のショートステイを経て当施設に入居した。入居後も、特に更衣・入浴・服薬の拒否が顕著であり、「財布がない。保険証がない。」と騒ぐことが多い。また、「家で暮らせる。帰る。」という気持ちが強い。Aさんが在宅生活中に信頼していた医師の名前を出しながら説明すると、落ち着くことが分かり始めたため、さしあたり現在は、「先生が心配してここに泊まるように聞いている。」と説明しているが、上記の拒否については現場でも対応に苦慮している。

・ <この事例で課題と感じている点>

本人が納得して入居に至っていないこと。介護の拒否が多く、衛生面での支援が行えないこと。「物がなくなった。」「帰りたい。」と毎日繰り返し周囲に訴える。エスカレートすると、「がとった。」「だまされてむりやり連れてこられた。」と興奮し、話が出る状態ではなくなる

・ <キーワード>

保険証、お金がなくなったと訴える。 入浴、更衣、服薬を拒否する。 頑として動かない。

・ <事例概要>

【年 齢】 80歳代半ば

【性 別】 女性

【職 歴】 飲食店店員

【家族構成】 甥のみ

【認知機能】 HDS - R13点

【要介護状態区分】 要介護3

【認知症高齢者の日常生活自立度】 a

【既往歴】 左肩脱臼 左肋骨骨折 右足関節骨折

【現 病】 アルツハイマー型認知症 狭心症

【服 薬】 アリセプトD・ガスロンN・ヨーデルS糖衣・アンブラーグ・ヘルベッサーR

【コミュニケーション能力】 「財布がない。」「保険証がない。」「家に帰る。」等、自分の考えを伝えることはできる。会話の内容も、その場限りではあるが理解して返答している。

【性格・気質】 話好きで寂しがりや。 頑固で面倒なことが嫌い。

【A D L】 食事・排泄・移動は自立。入浴・更衣は特に拒否が強く、介助も拒否だが、自分でも行おうとはしない。

【障害老人自立度】 A1

【生きがい・趣味】 かかりつけの医師が優しくしてくれていたこと。昔はレース編みが好きでテーブルクロスをよく作っていた。今は人との会話が楽しみ。

【生活歴】 海外で二女として出生。母はAさんが幼少のころに他界。母親の記憶は殆どなく、父、年の離れた姉からとてもかわいがられていた。終戦と同時に日本に引き揚げ結婚するが、子供は授からず、すぐに離婚。以降、飲食店で接客をしながら単身で生活していた。80歳に近くなった夏頃、近隣者から「Aさんの姿を見ない。」という連絡を受けた民生委員が自宅を訪問したところ、飲まず食わずでやせ衰えているAさんを発見した。すぐに介護サービス導入となるが、Aさんの介護拒否が強く、ヘルパーを追い返す・暴言を吐く・頑として動かないなどによってサービスの提供が行えず、事業所の責任者が随時訪問し、対応していた。甥も自宅で親の介護を一人で行っているため、同居することは困難なことから、いずれ入居となることを見越し、特養入居を申し込んだ。Aさんの性格上、いきなり入居するのではなく、少しずつ慣れていくために、入居1ヶ月前より数日間のショートステイを利用し、入居に至った。

【人間関係】 朗らかで話し好き。初対面の人ともよく話をする。血縁関係者は甥のみ。

【本人の意向】 甥の家で暮らす。だめなら自分一人で自分の家で暮らす。一人の方が気は楽だが、寂しいし、不安でもある。

【事例の発生場所】 特別養護老人ホーム